

目 次

緒 言

第 1 部	文学研究科および文学部の活動	1
第 1 章	学部および研究科の概要	1
1.	学部および研究科の沿革	1
2.	学部の教育理念および教育目標の設定	2
3.	学部の内容および構成	2
4.	研究科の理念	3
5.	研究科の中期目標	4
6.	研究科の内容および構成	5
第 2 章	研究科の教育活動	11
1.	大学院生の受け入れ	11
2.	教育・研究状況	11
3.	学位（博士）授与状況	12
4.	就学援助	12
5.	修了者の進路・活動状況	13
6.	文部科学省「博士課程教育リーディングプログラム」	13
第 3 章	学部の教育活動	19
1.	学生の受け入れ	19
2.	教育活動	20
3.	就学援助	21
4.	卒業生の進路・活動状況	21
5.	文部科学省「大学の世界展開力強化事業」	22
第 4 章	研究活動	36
1.	共同研究の体制	36
2.	研究補助金の取得状況	36
3.	学協会への参加状況	37
4.	研究科論集による研究成果の公表	37
5.	研究員等の受け入れ	38
6.	ファカルティ・ディベロップメント（FD）	38
7.	サバティカル研修	39
第 5 章	国際交流	54
1.	教員の交流	54
2.	学生の交流	54
3.	学術・教育交流	55
4.	学術講演会	55

第6章	社会との連携	62
1.	公開講座等	62
2.	学外委員・講師の引き受け	62
3.	企業等からの学術・教育助成	63
4.	受託研究・共同研究の受け入れ	63
第7章	教員組織	68
1.	教員配置	68
2.	教員選考の基準・方法等	68
3.	外国語教育研究センター教員	70
4.	特任教員	70
5.	非常勤講師	70
第8章	管理と運営	72
1.	研究科長、副研究科長および研究科長補佐	72
2.	研究科および学部の意思決定の方法と組織	72
3.	研究科・学部の管理・運営に関する諸規則	73
4.	各種委員会	74
5.	事務組織	82
6.	予算	84
7.	防災・環境保全の体制	85
第9章	研究科自己点検・評価の活動状況	88
第2部	講座（分野）等の活動状況	89
第3部	教員の活動状況	145
第4部	学生による評価	231

緒言

このたび公にする平成 28 年度広島大学文学部・文学研究科『自己点検・評価の記録』は、第三期中期目標・中期計画期間の最初の 1 年間を総括し、点検するものである。これまで 2 年間の活動を対象に自己点検と評価に当たってきたが、部局の組織評価その他が毎年課される現状に鑑み、単年度の活動をその都度まとめることとした。部局内の評価委員会が実務を担当するのは前回と同様である。

第三期の開始とともに、広島大学では教育・研究に関する大きな制度の変更が行われた。教員人事選考の権限が人事委員会と役員会とに集約されたこと、教員は大学院に所属し部局に配属されるようになったこと、全学的にターム制の適用が求められるようになったことの三つである。教育・研究の基本となる教員の選考と配置が基本的には部局の手を離れた所で決定されることとなり、これまで以上に部局には人員要求の根拠が求められる。また、大学院を構成するユニット単位で人事の必要性が測られるようになり、部局単独の論理は通用しなくなりつつある。さらに、ターム制をどのように文学部・文学研究科の授業に取り入れるかは、教育の本質とも直接関係することであり、慎重な検討が求められる。要するに、研究と教育の両面において、かつてないほどの変動が押し寄せてきており、従来の常識にのみ立脚しては対応できない事態となりつつあることをまずは認識する必要がある。

一方、人文学の教育研究には揺ぎ無い基本が存在し、それをないがしろにしては根本から崩れてしまっていて、その修復はほとんど望めない。まさに不易流行、基本は決してゆるがせにしないという姿勢を保ちつつ、状況に応じて柔軟に対応することこそが望まれるべきであろう。

私たちは、それぞれの専門分野で確固とした信念のもと充実した研究を進め、多くの優秀な学生を育ててきたという自負を抛り所とし、学問的良心に基づき、冷静に自己を点検し、評価し、改めるべきは改め、その結果を誠実に自らの言葉で説明してゆく。ご一覧の上、忌憚のないご意見を賜りたい。

平成 29 年 10 月 文学研究科長 久保田 啓一